

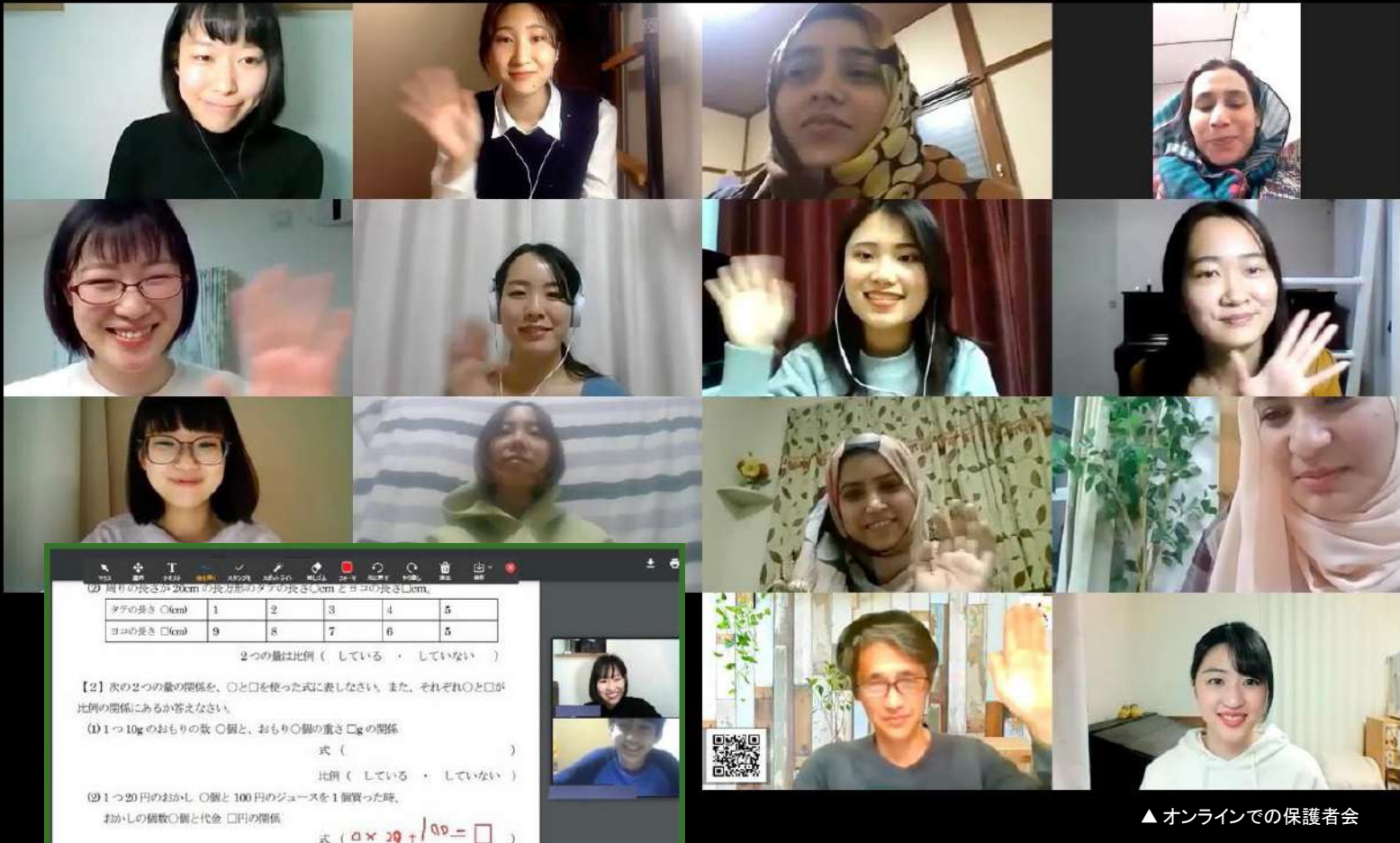


ボラン・て 6月

「ボラン・て」の「て」は、つなぎあう人と人の「手」。手を借りたり、貸したりするためのボランティア情報をイメージして名づけました。

～今できることを～

工夫して 一歩踏み出したい！withコロナ



▲小学5年生と算数の学習

▲オンラインでの保護者会

東京女子大学の日本語教育を専門とする松尾教授と学生が行っている、オンライン教科学習支援の様子をお伝えします。詳細は2面をご覧ください。

【特集】 ～今できることを～ 工夫して 一歩踏み出したい！withコロナ

オンラインによる教科学習支援活動

東京女子大学教授 松尾 慎さん 学生の皆さん

3面・・・3.11東日本大震災から10年 vol.2
センターからのお知らせ
裏面・・・夏のボランティア体験 案内

この情報紙は、区内のボランティアの方々に、宛名シール貼り、封入作業を行っていただき、発行しています。いつもご協力ありがとうございます。

【特集】

～今できることを～

工夫して 一步踏み出したい！ withコロナ

【特集】～今できることを～では、新しい生活様式の中で、一步踏み出し活動している様子をお伝えします。今回は、東京女子大学(杉並区善福寺)日本語教員養成課程の担当をしている松尾教授と6名の学生の方々に「オンラインによる教科学習支援」の活動についてお話をうかがいました。

オンラインだからこそつながった “学び合う場”

コロナ禍のなか生まれた活動 その背景は？

松尾 慎 教授



日本語教育を専門とする松尾教授は、多文化共生社会を後押しする活動を進めています。今まで東京女子大学の学生とともに、難民との日本語活動や海外にルーツを持つ子どもたちの学習の場を広げてきました。コロナ発生前の秋、あるロヒンギャ難民の保護者から子どもの学習支援の依頼がありました。日本の学校に入る子どもたちに、教科学習の遅れやクラスメイトとの関わり之苦労が見えたり、保護者にとって、漢字だらけの通知表やお便りを理解する難しさがあり、家庭で勉強を見ることに課題があったそうです。当初は対面で行おうとしていた矢先、コロナで中断。2020年6月、Zoom（ズーム）を活用したオンラインというかたちで、活動を踏み出しました。

日本語教員養成課程の学生を中心として、この活動に関わる学生は20名。群馬県館林市などで暮らし日本の学校に通うイスラム系の4家庭の小学生に、宿題などの学習サポートを行っています。頻度は各家庭週2～3回程度、1回の学習時間は約2時間。勉強だけではない、コミュニケーションの時間となっています。

オンラインで実現した学習の場 子どもたちや活動への想い ～学生の皆さんから～

西村 愛さん
(修士1年)



私は現在、月に2回のペースでオンライン学習に関わっています。事前にお母様からメールで内容をうかがったり、その日の宿題をすることが多く、休憩時にはお絵描きなどのコミュニケーションも大切にしています。関わる学生の曜日と家庭を固定し、子どもたちとの信頼関係につながりました。この活動によって、イスラム教やロヒンギャの方々の暮らしや文化を学ぶ機会にもなりました。コロナの影響で、思い描いていた大学生活が送れず沈んでしまう人もいるかもしれませんが、オンラインだからこそ、遠くの人とつながりやすくなり、ボランティアの可能性は広がっていると感じます。



▲パソコンの機能を使って
子どものお絵描き



▲算数の問題を
一緒に考えます▶



五嶋 友香さん
(修士1年)

担当するご家庭によっては、英語も使いながら保護者と連絡を取り合っています。活動の中で嬉しいことは、子どもたちの日々の頑張りが、テストの点数や通知表の結果となって表れたとき。子どもたちとお互いに喜び合い、自身の励みにもなっています。緊急事態宣言が解けた春休み、館林へ子どもたちに会いに行きました。それまで半年以上オンラインで顔を合わせ、ある程度関係性ができていましたが、子どもたちがどんな場所で暮らしていて、Zoomで見ていたこの背景はこの場所なのか、と発見もありました。それから心の距離がより近くなり、お互いに学び合う意欲が増しました。

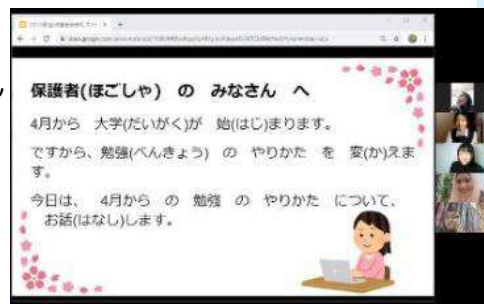
活動を通して、勉強を教えるだけでなく安心しておしゃべりができる環境も大事だと感じています。ときには雑談をしている中で、子どもたちの悩みが見えてくることも。「先生」というと固い感じがしますが、「お姉さん」くらいの年の離れ具合なので、心を開いて話せるのではないかと思います。一方、Zoomだと、ドリルの範囲が見えにくかったり、丸付けをしてあげられない悩みは今後工夫をして解決していきたいです。

木俣 莉子さん
(4年)



伊豆田 理奈さん
(4年)

担当をしている4年生の子どものお母様とは、ひらがなのやさしい日本語を使い、分かち書きをしてやり取りをしています。相手の立場に立って、どのように分かりやすい言葉で伝えるかを意識するようになりました。直面する課題もありますが、松尾先生や仲間と相談しながら、自分に何ができるかを考え活動をしています。オンライン学習支援を通して新しいことに挑戦し、視野を広げることができたと実感しています。



▲やさしい日本語を使って説明

「子どもたちの力になりたい」という気持ちで活動に参加しましたが、今は子どもたちから沢山の学びや喜び、パワーをもらっています。子どもたちの心身の成長を間近で感じることができているのが、数あるやりがいの一つです。私たちは、この活動を「学び合いの場」として大切にしています。

瀧谷 こはるさん
(4年)



東樹 美和さん
(4年)

松尾先生からのご紹介で始まったオンライン学習支援は、2021年6月で1年を迎えます。仮に「支援」という言葉を使っていますが、私たち学生と子どもたちとの双方向の学びの場です。この活動で得られた知見を活かして、海外にルーツを持つ人々と共に生きる日本社会実現のために何が必要か、何ができるか、今後も考え続け実践していきます。

withコロナ時代、私たちが今できること……

松尾教授は、「卒業した学生の進路は、日本語教師になる学生もいれば、別の進路に進む学生もいて様々ですが、この体験を家族や友人、出会った人に伝え、学んだことをこれからの人生に活かしてほしい。」と話されました。

新型コロナウイルスの影響で、活動のかたちは見直されましたが、学生の皆さんがオンラインを活用して試行錯誤しながら活動をしている様子をうかがうことができました。オンラインだからこそ継続することができただけでなく、今までつながることが難しかった方とのつながりも叶い、「学び合える場」の可能性が広がっていくことを教えていただきました。

杉並区社会福祉協議会 杉並ボランティアセンターは、様々な災害支援のボランティア活動と交流を行ってきました。この経緯を振り返ると共に、これからの備えや私たちができることを考えます。

第2回目となる今回は、杉並ボランティアセンター運営委員であり、「杉並災害ボランティアの会」初代表 阪野俊治さんからのメッセージです。

災害ボランティア活動をきっかけに地域デビュー

東日本大震災発災時、名古屋で仕事をしていた私は何もできずにいる事にもどかしさを感じていた。翌年退職して東京に戻った時、区報で福島県南相馬市へのボラバス※の案内を見つけ参加。その後、ボランティアセンターの「災害ボランティアスタッフ養成講座」を受講。地域との関わりを持つと共に、地域の一員としてどう過ごすかを模索していた私にとって大きな契機となった。講座にはすでに地域で様々な活動をしている素晴らしい方々がいらした。講座の中に南相馬市でのボランティア



◀ 炊き出しのレクチャー

活動があり、仮設住宅でのふれあい交流会（上記写真）が行われた。この交流会の楽しさが今に至る南相馬訪問活動につながっている。また講座修了生のメンバーたちと「杉並災害ボランティアの会」を立ち上げ、関東近県の被災地へも災害ボランティア活動に出かけた。

杉並の仲間たちとの活動、南相馬の心あたった人々との出会いは、サラリーマンの典型の様な私にとって大きな意味あるものとなった。まさにボランティア活動は単に人の為ならず自分の為にもある事を実感している。

※ボラバス（ボランティアバス）：南相馬市への災害支援活動を行うために実現した夜行バス。全5回実施。ボラン・て4月号にて掲載。

（文・「杉並災害ボランティアの会」会員 阪野俊治）

ご報告

やってみよう！オンライン～Zoom編～

5月15日（土）と5月22日（土）、オンライン初心者向けのお試し講座を開催しました。参加者は2日間で、のべ8名。自宅からパソコンでつながる方、会場でつながる方、それぞれの方法でZoom（ズーム）を使って話す体験をしました。

15日は、ボラセンのサポーターとして中村三紀さんにご協力いただき、Zoomの便利な使い方、打合せのコツについても教えていただきました。22日は、同じくサポーターとして秋田真彦さんにご協力いただき、参加者の質問にお答えしながら、地域活動での活用方法を一緒に実践しました。

杉並ボランティアセンターでは、これからもボランティア活動でのオンライン活用をサポートしていきます。お気軽にご相談ください。



▲ 秋田さん



▲ 中村さん

ご報告

特技さん ラインナップ完成

特技さん（特技ボランティア）をご活用ください！

杉並ボランティアセンターでは、福祉施設やイベント等で特技を披露していただく特技ボランティアをご紹介します。音楽・演芸・ダンスなど5つのカテゴリーからお選びいただけます。

詳しくは、ホームページ「ぼらせん.jp」の資料室に掲載している「特技さんラインナップ」をご覧ください。

ご要望やご質問などはセンターまでお気軽にどうぞ！

withコロナの活動もお待ちしています！



▲ホームページ「ぼらせん.jp」特技さんラインナップ

2年間と短い期間でしたが、6月で異動となりました。コロナ禍で思う様に皆さまと関われず、悔しい気持ちでいっぱいです。一日も早いコロナ感染の収束と、皆さまの今後のご活躍をお祈り申し上げます。



井上 節子

異動
しました



お問合せ

杉並ボランティアセンター
TEL:03-5347-3939 FAX:03-5347-2063

★杉並・グルメ・さんぽ★

作業所にしおぎ館（西荻北4-31-12
西荻マンション1階）TEL：03-3397-3154
<http://www14.big.or.jp/~fnkan/>



スパイスと茶葉の
ハーモニー！

チャイクッキー 150円

この夏、ボランティアデビューしてみませんか？

夏のボランティア体験 2021

コロナ禍でもできる活動しよう！という想いのもと、在宅でできるボランティア活動を中心にプログラムを準備しました！



2021.7.1 受付START!

1 我ら、キッズライターV

ボランティア

対象 小学生4～6年生

情報紙「ボラン・て」発送の取材をしてみよう！みなさんが書いた内容が紙面に載ります♪（全3回）



2 手話で交流しよう！

対象 小学生～社会人

聴覚障害のある方のコミュニケーションや生活を支援する手話をこの夏に体験してみませんか！



3 点字で交流しよう！

対象 小学生～社会人

6つの点を打って文字を表す“点字”を学び、実際に打つ体験をします。打った点字は視覚障害の講師の方に読んでいただきます。



4 Zoomでエンジョイ★国際交流

対象 中学生～社会人

杉並に住んでいる外国籍の方とお話してみませんか？食べ物や学校生活、文化など…お互いの国について知り、交流を深めましょう♪



※オンラインプログラム

5 施設へ贈る飾りを作ろう

対象 どなたでも

高齢者施設に飾る折り紙の作品を募集します。お寄せいただいた作品は施設へお届けします。皆さんと一緒に作る機会もあります。



※お家でできるボランティア

6 お手紙ボランティア

対象 どなたでも

お手紙で想いを届けてみませんか？お寄せいただいたお手紙は区内の福祉施設の職員や利用者の方にお送りします。



※お家でできるボランティア

求む！学生 ～夏ボラサポーター～

プログラムに参加する子どもたちのサポーターを募集します！

【手話】7月31日(土) 13:00～15:30

【点字】8月4日(水) 9:00～11:30

【折り紙】8月7日(土) 13:00～16:00

申込み
詳細

6月17日(木) から
プログラム集を公開！！

詳細はボランティアセンターのホームページ

「ぼらせん.jp」をご確認ください。

7月1日～ 申込みフォームにて受付開始！

杉並のボランティア情報紙「ボラン・て」

発行：社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会
杉並ボランティアセンター

〒167-0032 杉並区天沼3-19-16 ウェルファーム杉並4階

TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063

メール: info@borasen.jp ホームページ: http://borasen.jp

うるくん

杉並社協のイメージキャラクター

開所時間：火～土曜日

8:30～17:00

* 祝日・年末年始はお休みです。



情報紙「ボラン・て」は、次の区内各所にも置いてありますのでご利用ください。区役所・区民集会所・区民事務所・地域区民センター・一部のゆうゆう館・図書館・駅スタンド（区内JR、地下鉄丸の内線など）・他